

第1学年*組 国語科 学習指導案		
平成*年*月*日(*) 第*校時 *教室 指導者 成山 彰太		
育成する国語の能力	文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。	
単元名	仮名散文の表現の特徴を捉えて交流し、書き手の思いを理解しよう。	
単元目標	<p>○教材より積極的に課題点を見出し、グループ内でその解決に向け協力しようとする。 (関心・意欲・態度)</p> <p>○課題を解決するにあたり、文章の構成や展開を確かめ、その内容や表現の仕方について評価し合い、作者の意図を捉えようとする。 (読む能力)</p> <p>○文学史や適切な文法事項や語義を理解し課題解決に向かおうとする。 (知識・理解) (〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕イの(イ))</p>	
単元の評価規準	関心・意欲・態度	読む能力
	・グループ内での自己の役割を自ら見つけ、課題解決に向け尽力しようとしている。	・他者の意見や客観的な根拠を踏まえながら、文章の内容や作者の意図を捉えている。
取り上げる言語活動	読みを深めるために、グループワークを通して、内容や表現・書き手の意図を話し合うこと。	
題材(教材)	「更級日記～東路の果てに～」 菅原孝標女	
単元(教材)について	<p>(1)生徒観：与えられた課題などには取り組むが、能動的な学習を行うことや物事を探究する姿勢に欠ける生徒が多い。また、文面に表れた心情などを理解できる力は有するが、歴史的背景・作者の境遇など複数の要素を加味し心情を理解することは苦手とする者が多い。</p> <p>(2)教材観：前回までの「土佐日記」に続き、生徒たちのみでも比較的読み取り易い教材である。内容が平易な分、まだ取り扱っていない語彙や文法事項にも関心が向きやすいと考えるが、作者の心情推移理解には深い読みが必要となるのでしっかりと吟味させる。</p> <p>(3)指導観：「土佐日記」でのグループ活動を振り返らせ、各班に前回の反省点を洗い出させることで、その改善も踏まえた授業にしていくことができる。</p>	
指導計画(学習計画)	主な学習活動	主な評価
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 更級日記の文学史的な基本事項を確認する。 ○ 各グループに分かれて、担当する部分の着眼点を洗い出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を基に基本事項を確認しようとしている。 (関心・意欲・態度) ○ 本文を吟味しつつ、書き手の意図を理解するためのポイントを洗い出している。 (読む能力)
2～4	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートを用いながら、各グループで洗い出した課題点を解決していく。 ○ 写真やテキストなどを盛り込んで視覚的にも理解を促すような工夫を施す。 ○ 課題、及びその解決方法や解答などを共有するための発表(模擬授業)の準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワークシートをまとめるために積極的に議論に参加しようとしている。 (関心・意欲・態度) ○ 他者の意見や考えを聞き、内容や書き手の意図を吟味している。 (読む能力) ○ 新出の助動詞や単語についての理解を深めている。 (知識・理解)

5～7	<ul style="list-style-type: none"> ○グループ毎に、事前協議で決定した役割分担によって発表（模擬授業）を行う。 ○他のグループの課題解決型学習の発表を聞きながら、当該単元の読みを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他のグループの発表を聞き、自分なりの課題点を見出そうとしている。 (関心・意欲・態度) ○ 発表の際には、グループワークで話し合った、内容や表現に仕方について分かったこと、作者の心情などが盛り込まれている。 (読む能力)
-----	--	---

本 時 案 (第1時)

本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 班別課題探究の際に積極的に意見を出しあおうとする。(関心・意欲・態度) ○ 内容や表現の着眼点を洗い出している。(読む能力) ○ 「更級日記」について基本事項を理解している。(知識・理解)
-------	--

学習活動	指導上の配慮事項など	評価・方法など
1 「更級日記」の文学史的な位置づけを簡単に確認する。	○ 前回の「土佐日記」に関する確認も含めて指導する。	○ 「土佐日記」の復習事項を整理している。 (知識・理解) 〈質疑応答〉
文学史的背景、本文を理解し内容や表現の着眼点を出しあう。		
2 課題発見・解決型グループワークの取り組みの趣旨を再確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「答えがこうだから」という学習ではなく「なぜそうなるのか」という論理を認識しながら活動することの大切さを理解させる。 ○ 前回の反省点を今一度伝え、2回目の取り組みとなる今回は、その反省を生かした活動になるように促す。 	【努力を要する生徒への指導の手立て】 「土佐日記」の定着を図るため、もう一度前単元のノートを振り返させながら、授業参加を促す。
3 グループに分かれ、本文を吟味しながら読むことで課題点（疑問点）を洗い出し、共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の活動目標は「着眼点を見つける、言い換えれば、作者の意図などを捉えるうえで理解しなければならない点を見つけ出すこと」であることを確認してから“交流”に入る。 ○ 適宜、机間指導を行い、それぞれがどのような点を課題としているのか把握する。 	○ 既習の助動詞や敬語、作者の心情などの着眼点を互いに協力し洗い出している。 (読む能力) 〈課題プリントの取り組み状況の観察〉 ○ 疑問に思う着眼点をグループで共有しようとしている。 (関心・意欲・態度) 〈話合いの観察〉
4 次回以降の「課題解決ワークショップ」に進む段取りを考える。	○ 本時に解決できそうな課題点は、まとめをはじめてよいと伝える。また、「どのようなアプローチ」で解決していくか、考えを深めるよう声掛けをする。	【努力を要する生徒への指導の手立て】 「わからないところはどこだろう」と声掛けを行い、自分の不明点を発言させ、次回以降の取り組みの中心を確認させる。